

母親のウェルビーイング向上のための大学生向け SRHR 教育プログラムの開発
—母親へのライフストーリー・インタビューの分析結果をふまえて—

【 要 旨 】

ソーシャル・イノベーション研究
ソーシャル・イノベーション専攻
2024年3月修了
塩入 美雪

【 要 旨 】

本研究は母親のウェルビーイングの向上を目指し、次世代を育成する予備軍である青年期に性と生殖の側面から親準備性を高める大学生向けのセクシャル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (SRHR) 教育のプログラムの開発を目的としている。日本の性教育の現状、国際セクシュアリティ教育ガイダンス、青年期向けのリプロダクティブ・ヘルス/ライツ教育の先行研究を参照しながら、未就学児を持つ母親へのライフストーリー・インタビューを通じて、母親のウェルビーイング向上に必要な要素を5つ特定した。

5つの要素のうち、大学生向け SRHR 教育プログラムに盛り込む重要度が高い項目として、「自身の体の健康」「自身のキャリアとライフコースを描くこと」「出産のタイミング」の3つの要素を選定し、先行研究で学生の興味関心が低いテーマとされていた不妊・生殖医療の内容をふまえて、プロトタイプ講義を実施した。プロトタイプ講義に参加した大学生のアンケート結果をふまえて、今後 SRHR 教育プログラムを提供していくための実践すべきアクションを提示した。